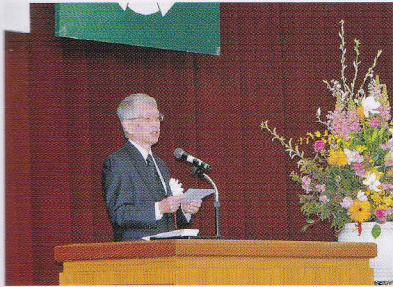


閉校式



あいさつ/野添 新一 実行委員長



あいさつ/椿 哲哉 県知事代理



あいさつ/有村 青子 県教育委員長代理



一言(校旗を託すにあたって)



一言(校旗を預かるにあたって)



校歌斉唱



式辞/黒江 修一 校長



校旗移譲



最後の卒業生



最後の職員



列席者(同窓会・一般)



記念品贈呈

惜別の会

城山観光ホテル ロイヤルガーデン



実行委員長 あいさつ



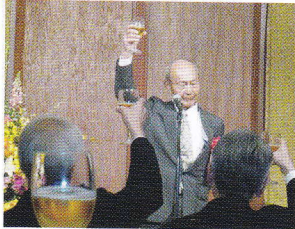
「思い出を語る」平田 清隆様



「思い出を語る」森山 裕様



「思い出を語る」福山 桜様



乾杯 川畑 文男様



会場風景



「西高ヒストリー」上映



歓談風景



校歌斉唱

メ ッ セ ー ジ

鹿児島県議会議長 金子 万寿夫

鹿児島県立鹿児島西高等学校の閉校にあたり、鹿児島県議会を代表いたしまして一言御挨拶を申し上げます。

鹿児島西高等学校は、昭和43年に創立して以来44年間にわたり、幾多の変遷を経ながら輝かしい歴史と伝統を築き上げ、幾多の有為な人材を輩出してこられました。その歴史も平成24年3月末をもって閉じられることとなりました。

この間、本校の発展に尽くされました歴代の校長先生や教職員の皆様方の不断の御精励と御尽力に対し、衷心より敬意を表しますとともに、PTAや同窓会、地域の皆様方の御理解と御支援に対しましても、深く敬意を表し心より感謝申し上げます。

閉校にあたりましては、一抹の寂しさもあろうかと存じますが、「実行・明朗・努力」の校訓のもと培われた精神は、これまでの1万6千名余りの卒業生や地域の皆様方に未永く受け継がれていくとともに、これまで築き上げられた伝統は、新設されました明桜館高校に引き継がれていくものと確信いたしております。

また、最後の卒業生となられた皆様方におかれましては、諸先輩方が築き上げてこられた44年の伝統と本校で学ばれた教訓を胸に、これからの社会を担う者としての責任を自覚し、より輝かしい未来を創造すべく力強く自分の道を進んで行かれますことを願いたします。

県議会といたしましても、次代の鹿児島を担う本県の青少年が、健やかな成長を遂げていけるよう、各種施策の推進に全力で取り組んでまいり所存であります。

結びに、これまで鹿児島西高等学校に愛情を注いでこられました皆様方の御健勝と御多幸を心から祈念いたします。

鹿児島県立鹿児島西高等学校閉校式

式 辞

鹿児島県立鹿児島西高等学校
校長 黒江 修 一

本日ここに、44年の輝かしい歴史と伝統を刻み続けた鹿児島県立鹿児島西高等学校の閉校記念式典を、同窓会並びにPTAの皆様の御協力のもと、県教育委員会をはじめ多数の御来賓の皆様の御臨席を賜り、盛大に挙行できますことを心から感謝申し上げます。

顧みますと、本校は、昭和18年4月に県立履正中学校として設置され、向学心に燃える人々のために夜間授業を開始いたしました。昭和23年には通信教育部が発足、その後、鹿児島県立鶴丸高等学校夜間部、鹿児島県立日新高等学校と校名を変えて、昭和43年には日新高等学校と鶴丸高等学校通信教育部が統合し、新たに定時制昼間課程を加え、現在地に鹿児島県立鹿児島西高等学校が開校されました。しかし、定時制昼間課程は平成3年に、定時制夜間課程は平成15年3月に閉課程となり、また通信制課程は、平成12年3月に開陽高校へ移管いたしました。

こうした幾多の変遷の中で、定時制・通信制課程に加えて、昭和51年4月に現在の全日制商業科が設置されました。その後、今日に至るまで、県立学校としては、商業を学ぶ唯一の専門高校として、「実行」「明朗」「努力」の校訓のもと、明るく誠実な人材の育成を図り、本県商業教育の拠点校としてその責務を果たしながら、郷土鹿児島の発展に貢献してまいりました。

全日制課程商業科の卒業生は6,986名、また鹿児島西高校をこれまで巣立って行った卒業生は、16,189名に及びます。卒業生は、郷土鹿児島の振興と発展に貢献されるとともに、全国各地においてもそれぞれの道、それぞれの分野で活躍され、社会の発展に尽くしておられます。

しかしながら、地域と共に歩み、地域と共に今日まで着実な発展を続け、独自の気風と伝統を築いて参りました鹿児島西高校は、本県公立高等学校再編整備計画の一環として、甲陵高校との統合により本年3月31日をもって、歴史の幕を閉じることになりました。本校で出会った仲間たちと、共に笑い、共に泣き、青春の夢を語り合った同窓生の皆様のお気持ちを察しますと、言葉がございません。数々の思い出が溢れる本校の歴史に終止符を打つことは、哀惜の念ひとしおでございますが、皆様におかれましては、諸般の事情を御賢察いただき、新しい高校として発展を重ねる明桜館高校へ、御支援と御厚情を賜りますようお願いいたします。

人間がいつ生まれいつ死んだかということが重要な意味をもつように、本校がいつ出来て、いつ閉校となったのかも大きな意味を持っております。本校がその輝かしい歴史を閉じましても、かけがえのない青春時代を共に過ごした仲間たちとの絆は、いつまでも同窓生の皆様の心に生き続けるに違いありません。

鹿児島西高校の歴史を閉じるに当たり、創設以来今日まで温かく本校を見守り、多くの励ましと御支援・御協力を賜りました同窓会やPTA、そしてお世話になりました企業や地域の皆様をはじめ、最後まで御指導をいただきました県教育委員会など多くの皆様方に心から感謝申し上げます。同窓生の皆様や旧師の方々のますますの御発展と、御列席をいただきました皆様方に心からお礼を申し上げまして、閉校の挨拶とさせていただきます。

鹿児島県立鹿児島西高等学校閉校式

あいさつ

閉校記念事業実行委員長 野添新一



鹿児島県立鹿児島西高等学校の閉校を迎えるにあたり、閉校記念事業実行委員会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。本日は県教育委員会をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜り、このような閉校記念式典を挙行できますことを心より感謝申し上げます。

これまで本校に学び切磋琢磨してきた同窓生の皆様、また本校と縁の深い皆様方と、今改めて本校の歴史を振り返ってみます時、感慨無量なものがあります。本校は、経済の発展に呼応し、社会の多様性に応じる形で昭和43年に開校しました。本校の歴史は先ほど校長先生のご挨拶にありましたように、昭和18年、県立履正中学校に始まり、今年で約70年の歴史を刻んだこととなります。この間、定時制昼間課程は平成3年に、定時制夜間課程は平成15年に閉課程となり、通信制課程は平成12年に開陽高校へ移管されました。

このような変遷の中で全日制商業科は昭和51年に設置され、今日に至るまで本県商業教育の拠点校としてその責務を果たしながら、郷土鹿児島発展に貢献してまいりました。全日制課程商業科の卒業生は6,986名に及び、卒業生は、本県はもとより全国各地に活躍の場を広げて、それぞれの分野で社会の発展に尽くしておられます。

ところで今日、学校制度のあり方において一部軋みが生じ社会問題となっていることはよく知られています。たとえば、平成22年の県内高校生の不登校数は過去最多の991名であったと報道されました。しかし本校では最近の4年間をみても、不登校のために学校を去った生徒は皆無であったとお聞きしており、非常に注目されてしかるべきであると思います。これには教職員並びに保護者の皆様の支援による貢献があったと思いますが、同時に西高の生徒たちが「自ら学びの精神」をもっていたということになりましょう。本校はかつて昭和20～30年代、昼間働きながら、夜学ぶ多くの学生がいたこと、さらにそれもかなわず、通信の手段をもって勉学にいそしんだ学生がいたことなどに思いを馳せる時、今も厳然として西高生に「自ら学びの精神」が脈々と引き継がれていることに、改めて気づかされ、身の引き締まる思いがします。

以上のように、本校はこれまで多くの変遷を経てまいりましたが、この度高校再編整備計画の一環として、甲陵高校との統合により本年3月31日をもって、歴史の幕を閉じ、新しく明桜館高校としてスタートします。少子化が進行するなど時代の流れとはいえ、現状を鑑みると、非常に残念ですがやむを得ないことだと思っております。本校がその輝かしい歴史を閉じましても、ここで学んだ青春の素晴らしい記憶や仲間との絆はいつまでも同窓生の皆様の心に生き続けていると思います。

この度の閉校にあたりましては同窓会を中心に閉校記念事業実行委員会を組織し、学校当局、PTA代表の方々と緊密な連携を取りながら諸般の事業を進めてまいりました。約1年間の実行委員会の活動に対して同窓生の皆様から多大なご協力をいただき本日の記念式典を迎えることができましたことに対し、深く感謝し厚くお礼申し上げます。終わりに臨み、これまでに本校へお寄せくださいました関係者各位のご理解とご支援に対して深甚なる敬意を表しますとともに、この場にご出席の皆様のご健勝を祈念し挨拶といたします。

鹿児島県立鹿児島西高等学校閉校式

知事あいさつ

鹿児島県知事代理
椿 哲 哉

鹿児島県立鹿児島西高等学校の閉校式に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

本校は、昭和43年、県立日新高等学校と県立鶴丸高等学校通信教育部が統合し県立鹿児島西高等学校として設置されて以来、44年にわたり築いてこられた歴史を、平成24年3月をもって、新しく設置された明桜館高校に発展的に引き継ぐことになりました。これまでの歴史を振り返るとき、卒業生の皆様や保護者の方々をはじめ、本校に勤務された教職員の方々、並びに地域の皆様におかれましても、感慨深いことと思います。

ここ伊敷地区は、高等学校、小学校、中学校、特別支援学校、県立の短期大学があるという素晴らしい教育環境に恵まれており、鹿児島の文教地区とも言われています。また、地域は、古くから栄え、地名の由来ともなった伊爾色神社や妙谷寺跡、島津家の玉里別邸跡など歴史にゆかりのある地も多くあります。本校はこうした伝統や文化に支えられ、落ち着いた環境のもと「にしこう」の名で地域の方々から親しまれ、鹿児島の産業・文化を担う人材を育成する役割を果たすとともに、知・徳・体の調和のとれた人間形成に努めてられました。

この学舎で日々勉学に励まれ、巣立っていかれた1万6千余の卒業生の皆さんは、県内のみならず全国各地で活躍されています。これもひとえに同窓会をはじめPTA、地域の皆様の温かい御理解・御支援のたまものであり、深く敬意を表します。

この学舎で培われた精神は、卒業生や地域の皆様のそれぞれの胸に深く刻み込まれ、また、本校の伝統は、新設された明桜館高校が、受け継いでいくものと確信しております。

本日、最後の卒業生となられた皆さんは、ここで学ばれたことに誇りと自信を持ち、明日からの新しい日々を力強く歩んで行かれますよう念願しております。

終わりに、これまで鹿児島県立鹿児島西高等学校のために多大な尽力を賜りました地元の方々をはじめ、同窓生並びに本校にゆかりのある方々に心から感謝を申し上げますとともに、御臨席の皆様の御健勝・御多幸を祈念しまして、あいさつといたします。

鹿児島県立鹿児島西高等学校閉校式

教育委員会あいさつ

鹿児島県教育委員会
有村青子



創立以来、44年もの間、地域の教育を担い、営々と伝統を築いてまいりました本校は、この3月をもってその歴史を新設校に発展的に引き継ぐことになりました。

これまで、本校の教育を支えてくださいました地域の皆様をはじめ、同窓会・PTAの方々
と御一緒に、今改めて、本校のこれまでの歩みを顧みますとき、誠に感無量のものがござい
ます。

本校は、今日まで学校・地域が一体となり、独自の校風と伝統を築き、「実行・明朗・努
力」の校訓のもと、社会に貢献できる心豊かでたくましい人材を育成してこられました。

昭和43年の創立時には、定時制及び通信制課程が設置され、その後、昭和51年に全日制
課程も併置され、学科も普通科・商業科・農業経営科・衛生看護科と、地域のニーズや勤労
青年の学びの場として、生徒の多様な進路希望の実現に努めてきました。

定時制及び通信制の課程を閉じた後も、商業科において、コース制の導入や課題研究の深
化により専門教育の充実を図り、国家資格である基本情報技術者試験を始め様々な資格取得
に取り組んできました。また、県下に先駆けて行われた職業観を育むための「職場体験学習」、
開発商品を活かしての「観光PR活動」など、特色ある教育活動も実施してきました。部活
動においても、多くの生徒が運動部・文化部に所属し、地区大会や県大会で大いに活躍し、
まさに文武両道の輝かしい伝統を築いてきました。

生徒会活動では、ボランティア活動や地域の清掃活動をはじめ、地域の行事にも積極的に
参加してきました。

今年度の文化祭・体育祭は、44年間地域に支えられたことへの感謝を込めて開催されま
した。特に文化祭では、生徒手作りの商品を販売するバザーを開催し、地域住民や同窓生及
び保護者が多数訪れた盛況ぶりは、新聞等でも紹介され、地域一体となった素晴らしい思い
出を残すことができました。

これまで、本校は、こうした地域の方々の温かい御支援に応えようと、一步一步確かな歩
みを続けてきましたが、4月からは、その伝統を明桜館高校に引き継ぐことになりました。

惜別の情を禁じ得ませんが、本校で学んだ青春の日々は、卒業生の皆さんの胸中に「むら
さき匂う桜島 地軸つらぬく噴煙の熱き心と力もて 真理の道を踏みゆかん」とある校歌と
ともに深く刻まれ、生きる糧となっていくものであり、また地域の皆様にも末永く語り継が
れ、受け継がれていくものと信じております。

終わりになりますが、これまで本校にお寄せいただいた皆様の温かい御理解と御支援に対
し、心から感謝申し上げますとともに、本校の卒業生ならびに本校に関わっていただいた多
くの方々の、今後の御健勝・御発展を祈念申し上げまして、あいさつといたします。

閉校記念体育祭 平成23年9月10日(土)



全員リレー



なわとび競争



体育祭テーマ



西高秋の陣 (生徒 対 来賓・保護者・卒業生)



障害物競走



あたご保育園の皆さんとお遊戯



黄組応援団



フォークダンスを終えて



青組応援団



台風の日



校歌斉唱



部活動リレー